

利用実態調査結果

- 1 区民アンケート調査
- 2 来訪者アンケート調査
- 3 シェアサイクル利用者アンケート調査
- 4 事業者アンケート調査
- 5 関係者ヒアリング調査
- 6 交通量調査



1 区民アンケート調査



■調査概要

調査目的

区民に「自転車利用の意向」や「快適性・満足度」や「駐輪需要」等を確認することで、区民が本当に求める姿と行政が推進したい姿とに乖離がない計画を策定するため、アンケート調査を実施した。

また、アンケートを通じて、区民への交通ルールや駐輪場所等の周知効果にも期待した。

調査時期

令和6年12月26日(木)～令和7年1月17日(金)

調査対象

15歳以上の区民

※住民基本台帳より、15～64歳は10歳区切りで各600人、65歳以上は1000人を無作為抽出)

調査方法

QRコード付きの通常はがきを4000通郵送し、記載のQRコードからWebにて回答いただいた。

調査項目

- ・自転車利用頻度
- ・自転車利用目的
- ・区内の自転車車道走行環境/駐輪環境への不満
- ・交通ルールの認知度/遵守度
- ・区の自転車利用環境に対する満足度
- ・区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み 他

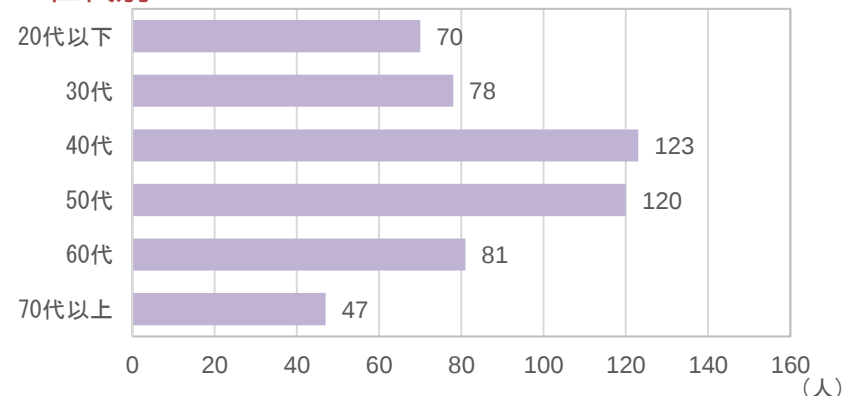
■調査結果（基礎情報）

回答者数

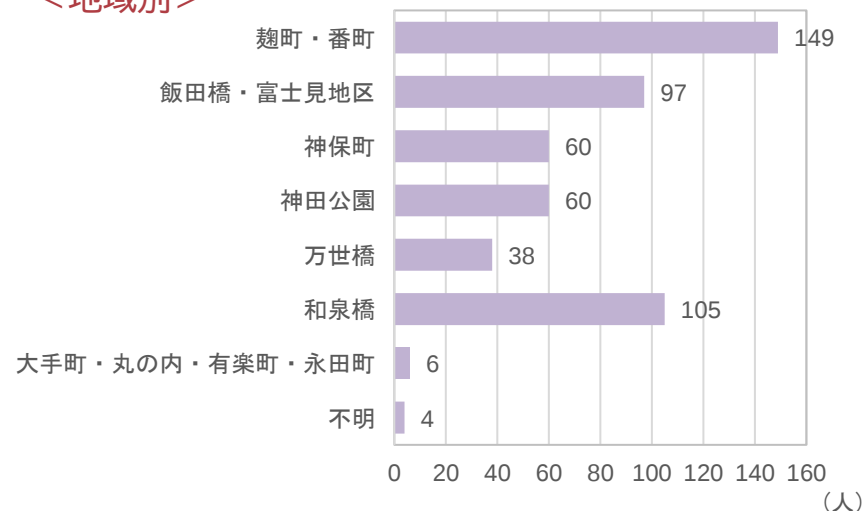
519人（回答率13.0%）

回答者属性

<世代別>



<地域別>



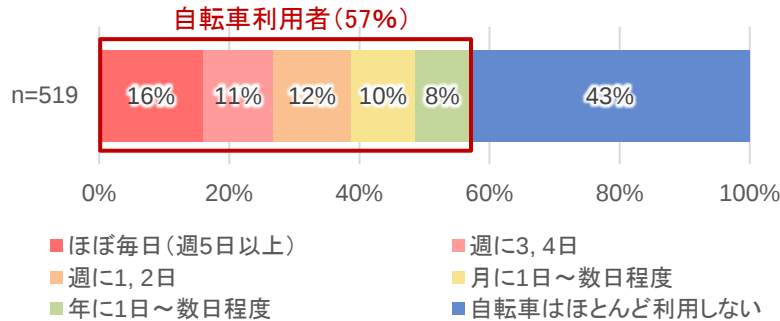
1 区民アンケート調査



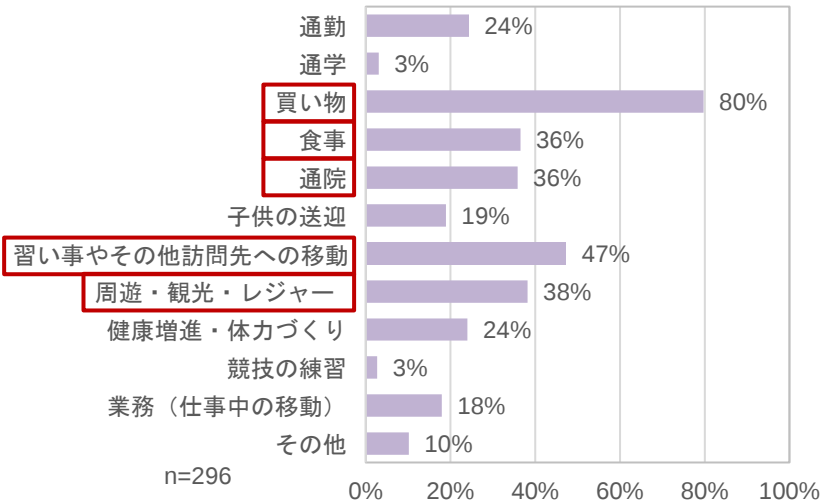
■調査結果（概要）

- ・ 自転車を利用する区民は全体の6割程度である。また、週に1回以上利用する区民が4割程度存在する。
- ・ 利用目的は「買い物」が80%と最も多い。次いで「習い事やその他訪問先への移動(47%)」、「周遊・観光・レジャー(38%)」、「食事(36%)」、「通院(36%)」となっており、利用目的は多岐にわたる。
- ・ 自転車の交通ルールについては、いずれのルールも区民の7割以上が知っているものの、守っていると回答した自転車を利用する区民は4～6割程度と低い。認知と遵守の実態には大きく乖離がある。

自転車利用頻度



自転車利用目的



自転車の交通ルールの認知度/遵守度

道路交通法上、自転車は原則として車道を走行すること

道路交通法上、自転車は原則として車道の左側を走行すること

道路交通法上、歩道上で歩行者の通行を妨げるような場合は、一時停止すること

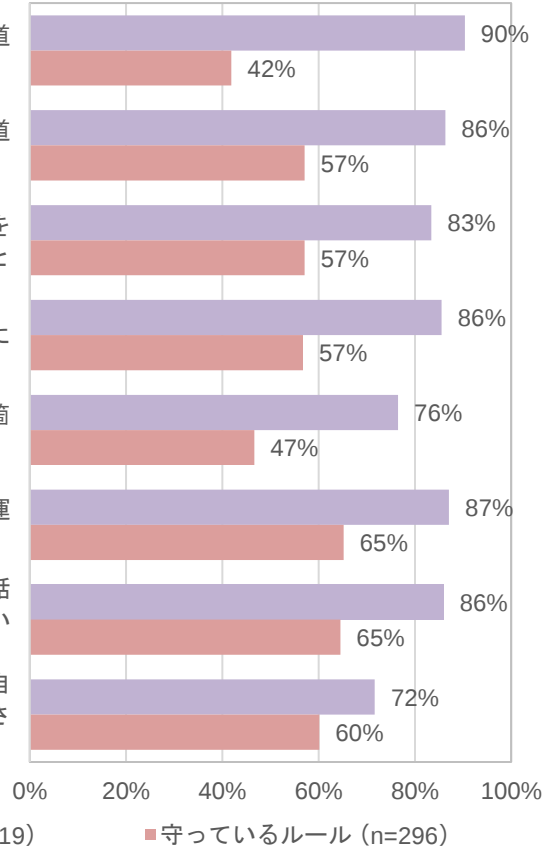
道路交通法上、車道を走行する自転車は、原則車道の信号機(青・黄・赤)に従うこと

道路交通法の「止まれ」の標識がある箇所では、自転車も一時停止をすること

道路交通法上、酒気を帯びて自転車を運転することは禁止されていること

道路交通法上、自転車運転中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止されていること

東京都では、道路交通規則に基づき、自転車運転中のイヤホン等の使用は禁止されていること



※知っているルール: 区民のうち、各ルールを知っていると回答した割合

守っているルール: 自転車を利用する区民のうち、各ルールを守っていると回答した割合

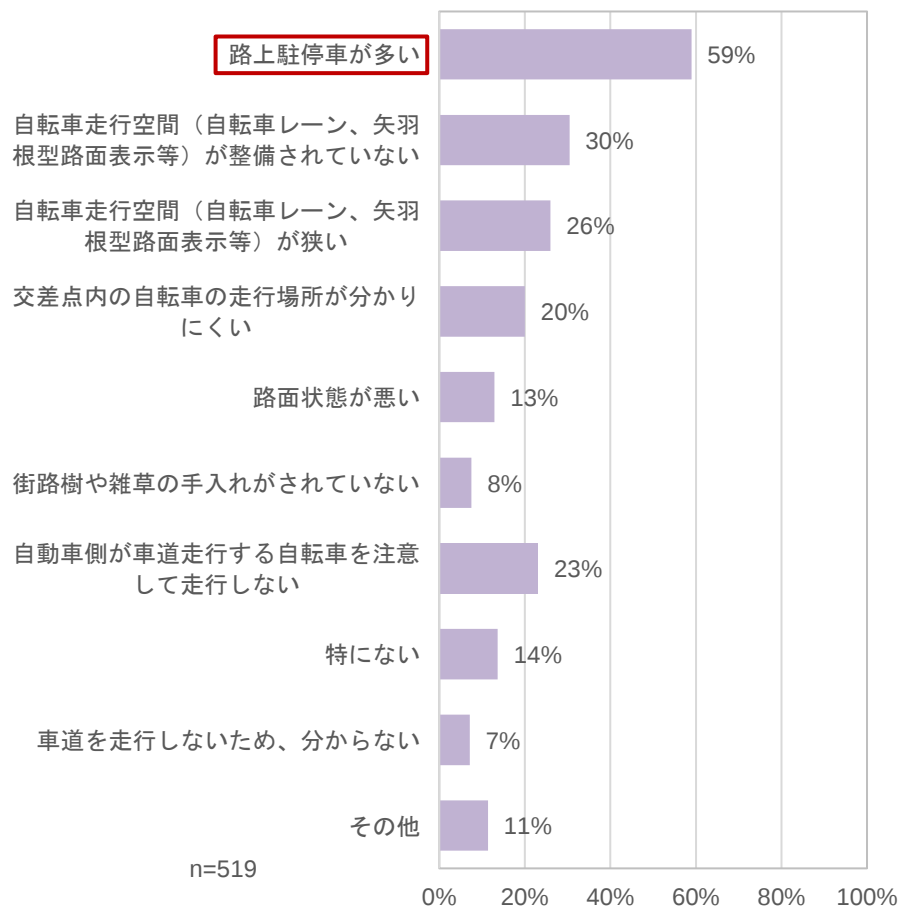
1 区民アンケート調査



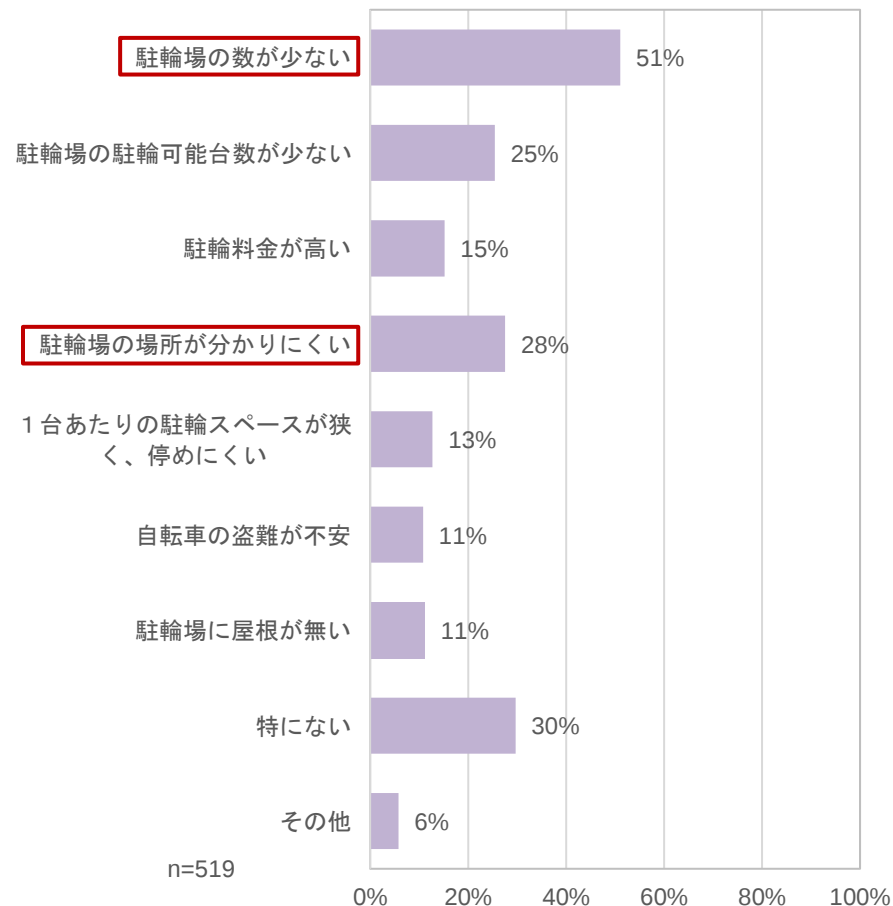
■調査結果（概要）

- 区内の車道走行環境への不満として「路上駐停車が多い」と回答した人が最も多く、全体の約6割に上る。
- 区内の駐輪環境への不満として、「駐輪場の数が少ない」と回答した人が約5割、「駐輪場の場所が分かりにくい」と回答した人が約3割存在する。

区内の自転車車道走行環境への不満



区内の自転車駐輪環境への不満



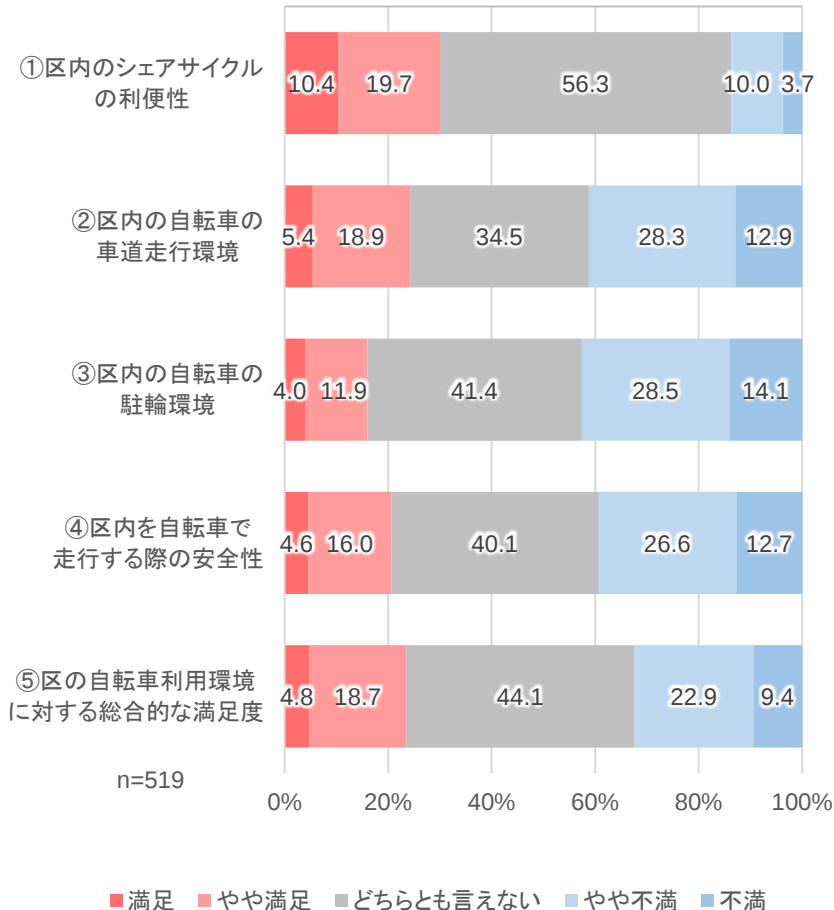
1 区民アンケート調査



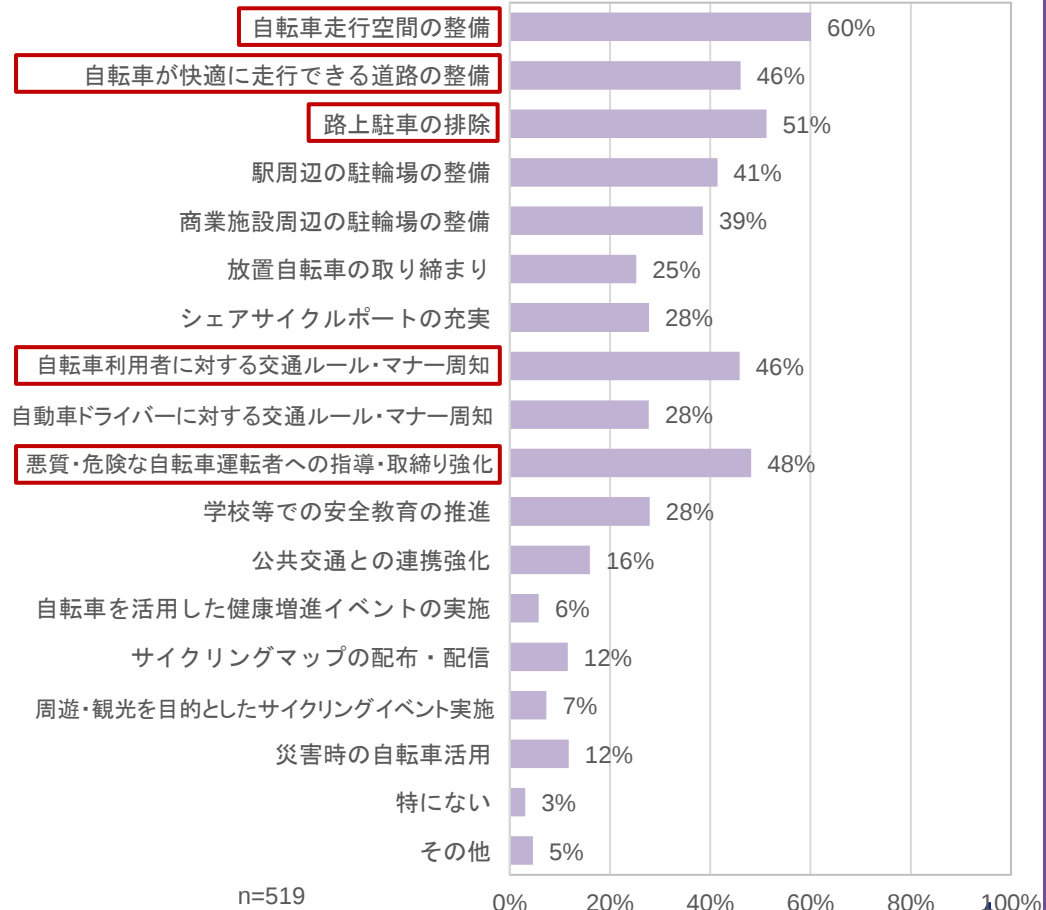
■調査結果（概要）

- 区内の自転車利用環境に対する満足度は、いずれの項目も2～3割程度と低い。
シェアサイクルの利便性に対する満足度は比較的高いものの、駐輪環境に対しては不満を持つ割合が高い。
- 重要だと思う取り組みについては、「自転車走行空間の整備」、「路上駐車の排除」、「自転車が快適に走行できる道路の整備」などの走行時の快適性向上に関する取り組みを回答する人が多く、「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り」や「自転車利用者に対する交通ルール・マナー周知」を求める声も多い。

区内の自転車利用環境に対する満足度



区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み



2 来訪者アンケート調査



■調査概要

調査目的

昼夜間人口の差が大きい千代田区では、区外からの観光客や買い物客、通勤通学者等の自転車利用が区内の自転車の移動の大半を占めると考えられる。有効な施策の展開や、来訪者が感じている「自転車利用の快適性・満足度」、「シェアサイクルの利便性、案内の充実度」等を確認するため、アンケート調査を実施した。

また、アンケートを通じて、区来訪者への交通ルールや駐輪場所等の周知効果にも期待した。

調査時期

令和6年12月23日(月)～12月25日(水)

調査対象

下記条件を全て満たす方

条件①：1都3県在住者(千代田区民は除く)

条件②：半年以内に千代田区に来訪

調査方法

Webアンケート事業者のモニターを対象にスクリーニング調査を実施し、条件を満たす対象者を抽出した。その後、抽出したモニターを対象に、本調査を実施した。

調査項目

- ・区内自転車利用時の駐輪場所
- ・区内の自転車車道走行環境/駐輪環境への不満
- ・自転車での区内観光施設への来訪状況
- ・区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み 他

■調査結果(基礎情報)

回答者数

400人

【内訳】

(1) 自転車利用者(千代田区内)

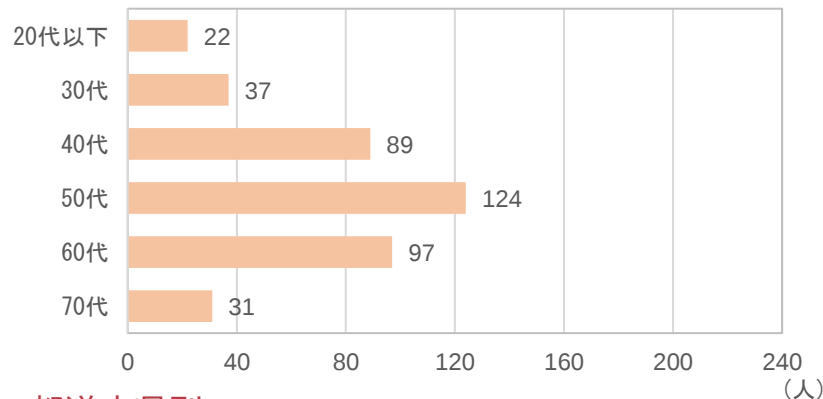
通勤・通学目的 100人、買い物・観光等目的 100人

(2) 自転車非利用者(千代田区内)

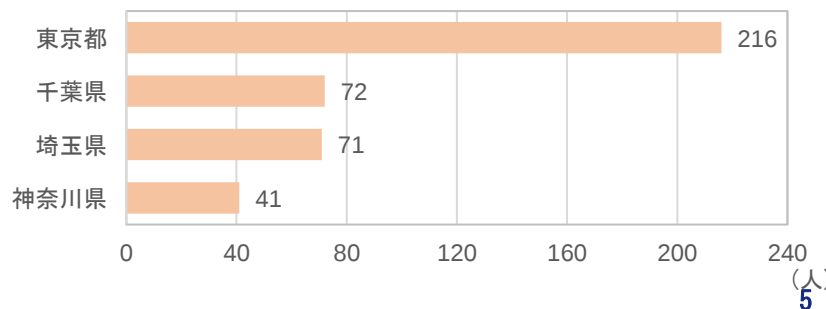
通勤・通学目的 100人、買い物・観光等目的 100人

回答者属性

<世代別>



<都道府県別>



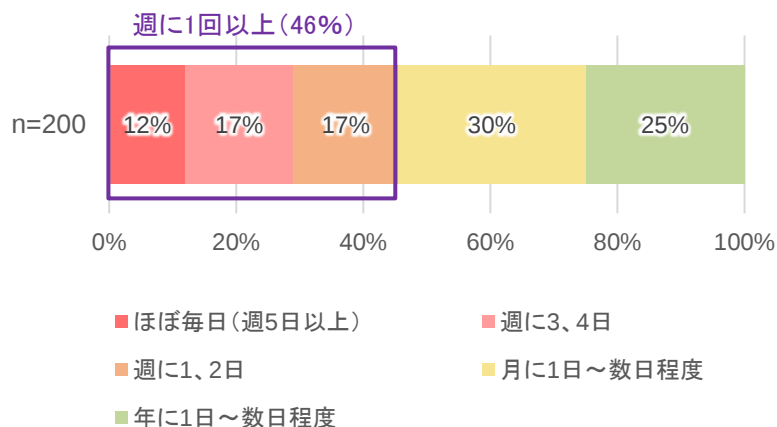
2 来訪者アンケート調査



■調査結果（概要）

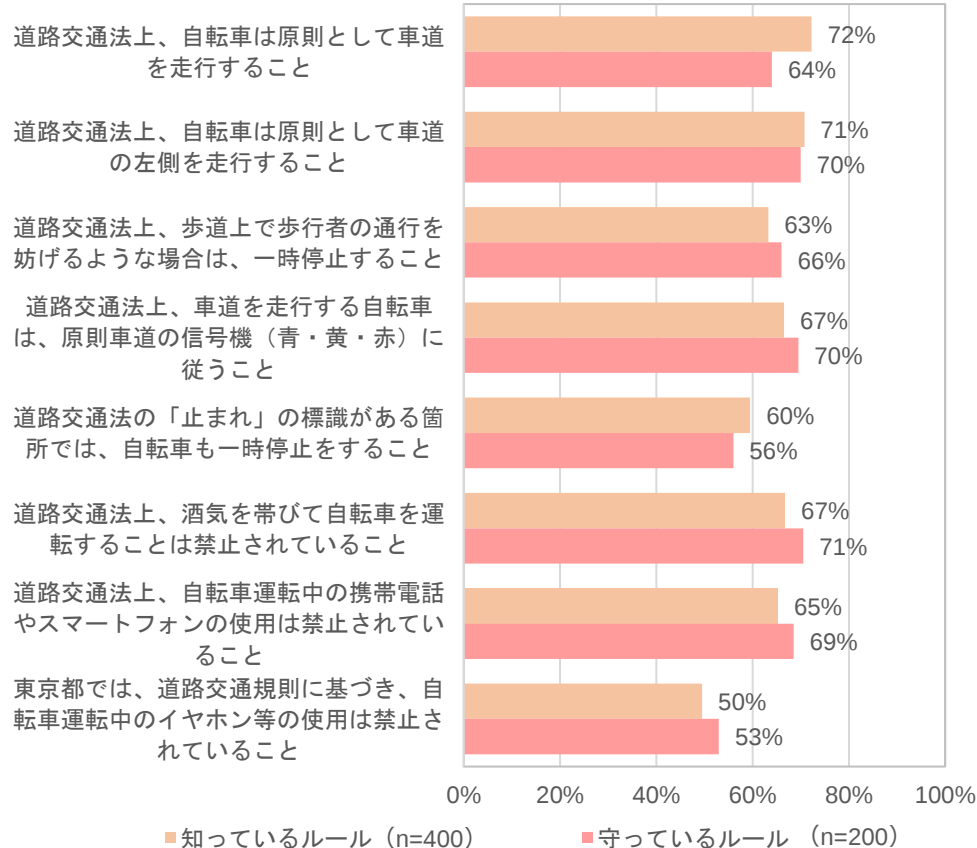
- 千代田区内で自転車を利用する来訪者のうち、5割弱が週に1回以上利用していると回答。
- いずれの自転車の交通ルールについても、知っている人、守っている人ともに5～7割程度である。区民アンケート結果と比較すると、認知度は低いものの遵守度は高い傾向がある。

区内の自転車利用頻度



※回答対象：区内で自転車を利用する来訪者のみ

自転車の交通ルールの認知度/遵守度



※知っているルール：来訪者のうち、各ルールを知っていると回答した割合

守っているルール：千代田区内で自転車を利用する来訪者のうち、各ルールを守っていると回答した割合

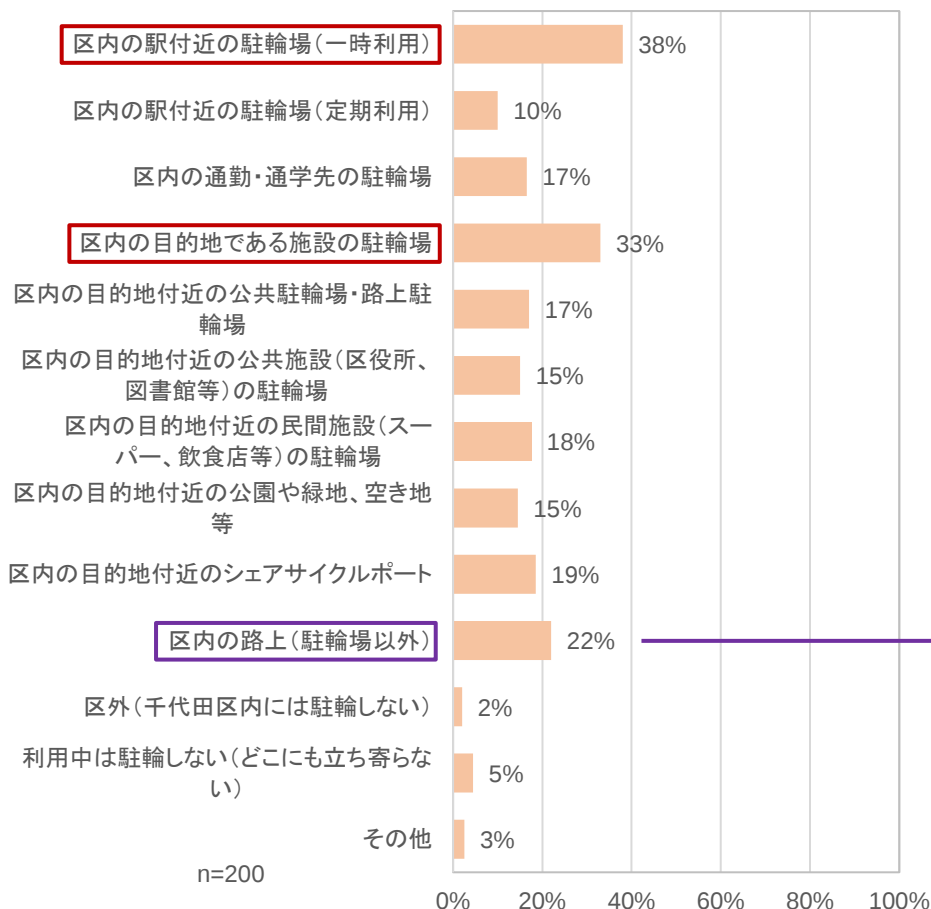
2 来訪者アンケート調査



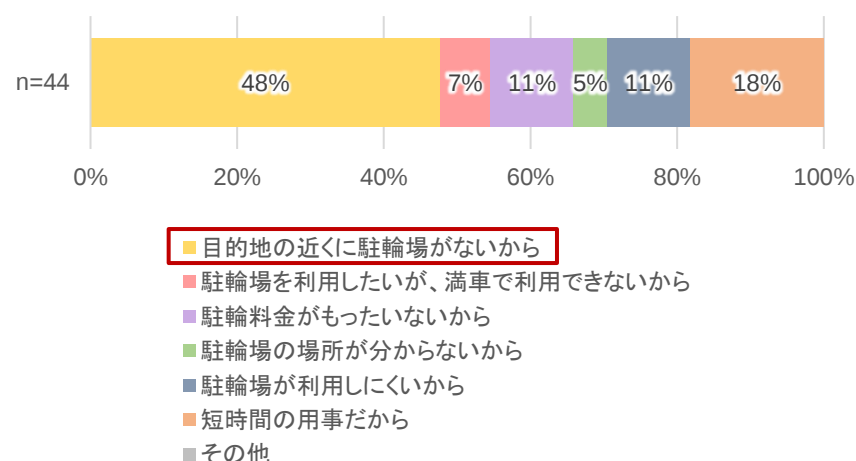
■調査結果（概要）

- 区内で自転車を利用する来訪者は、「駅付近の一時利用駐輪場」や「目的地施設の駐輪場」に停める人が多い。一方で、「目的地付近に駐輪場が無い」等の理由で「路上に駐輪」する人も2割程度存在している。
- 区内の観光施設へは2割程度の人が自転車で来訪しているほか、「駐輪環境等が整備されたら自転車で来訪したい」人も更に2割程度存在しており、駐輪場整備や利用環境改善による自転車来訪者の増加が期待される。

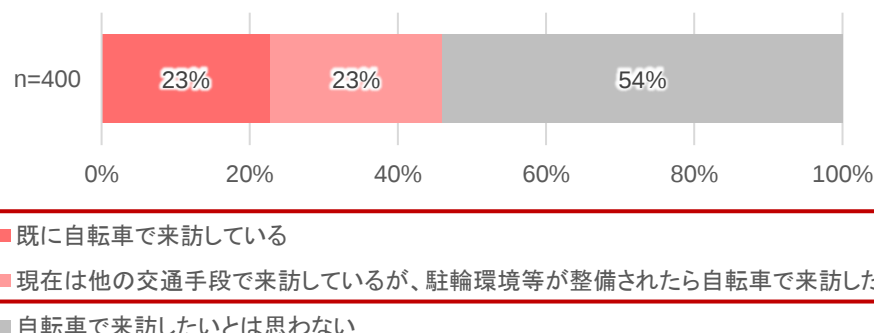
区内の自転車駐輪場所



区内で駐輪場以外の場所（路上）に停める理由



自転車での区内観光施設への来訪状況



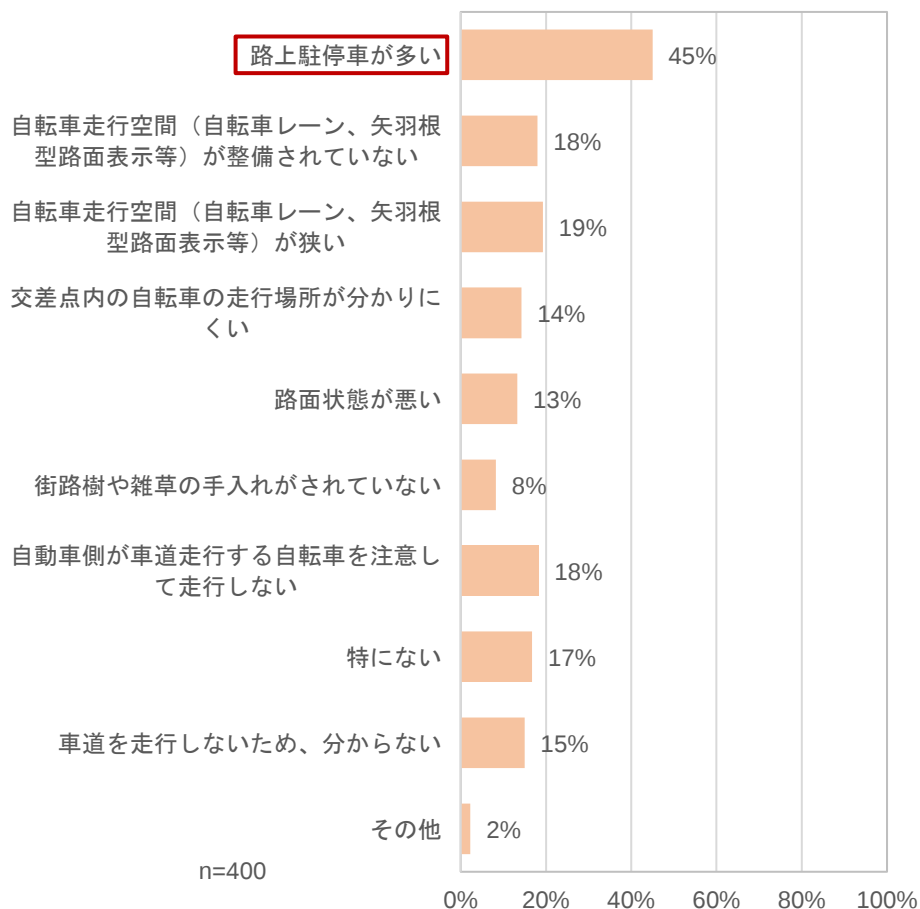
2 来訪者アンケート調査



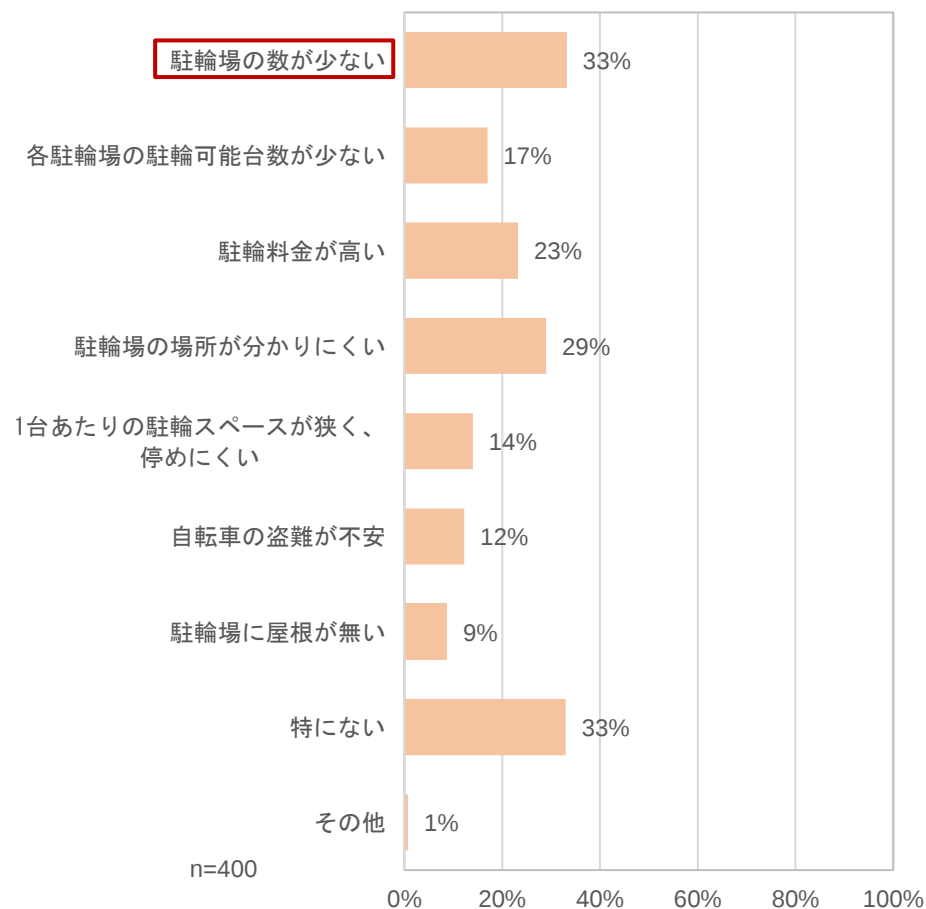
■調査結果（概要）

- 区内の車道走行環境への不満として「路上駐停車が多い(45%)」、駐輪環境への不満として「駐輪場の数が少ない(33%)」ことを挙げる人が多い(区民・事業者アンケート結果と同様の結果)。ただし、他のアンケートと比較して、各不満を持つ人の割合は低い傾向がある。

区内の自転車車道走行環境への不満



区内の自転車駐輪環境への不満



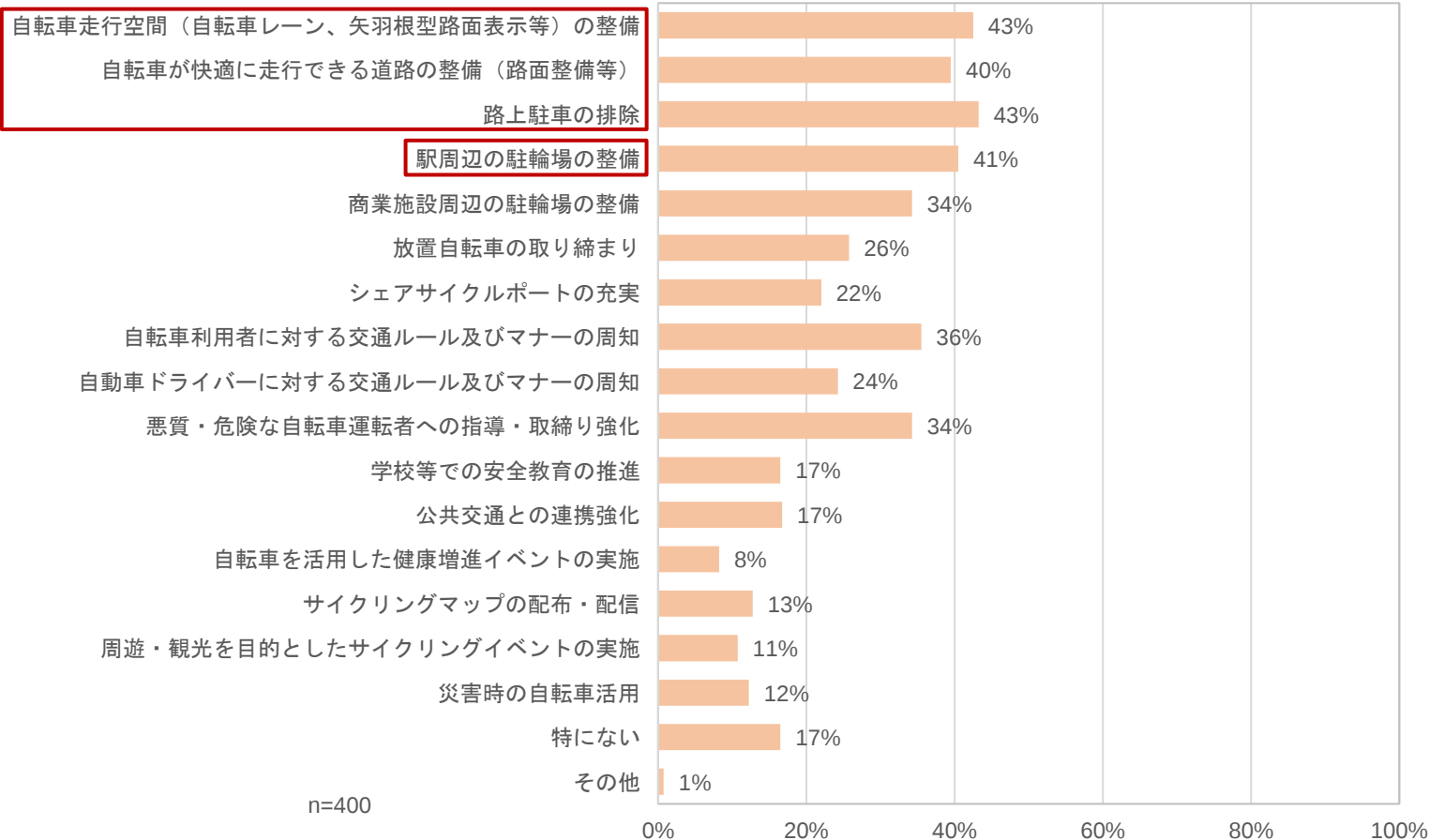
2 来訪者アンケート調査



■調査結果（概要）

- 重要だと思う取り組みについては、「自転車走行空間の整備」や「路上駐車の排除」など、走行時の快適性向上に関する取り組みを求める声が多い（区民アンケート結果と同様）。
- また、「駅周辺の駐輪場の整備」についても重要視されている。

区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み



3 シェアサイクル利用者アンケート調査



■調査概要

調査目的

シェアサイクルデータでは把握できない、利用目的や利用環境に関する満足度、ニーズなどを確認するため、シェアサイクル利用者に対してアンケートを実施した。

調査時期

令和6年12月26日(木)～令和7年1月10日(金)

調査対象

千代田区内において、年に1回以上シェアサイクルを利用している方

調査方法

千代田区コミュニティサイクル事業「ちよくる」を行っている株式会社ドコモ・バイクシェアを通じ、アプリのプッシュ通知によるアンケートを実施いただいた。

調査項目

- ・区内のシェアサイクル利用頻度
- ・区内のシェアサイクル利用目的
- ・区内でシェアサイクルを利用する理由
- ・シェアサイクル利用/自転車車道走行環境に対する不満
- ・区内のシェアサイクル利便性/自転車車道走行環境/自転車走行時の安全性に対する満足度

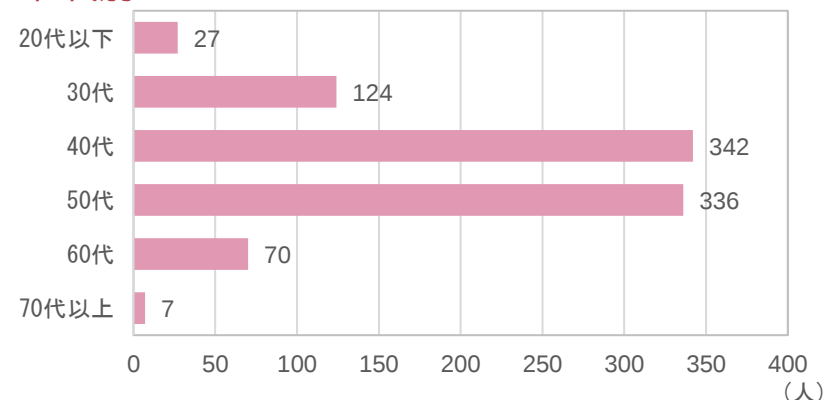
■調査結果（基礎情報）

回答者数

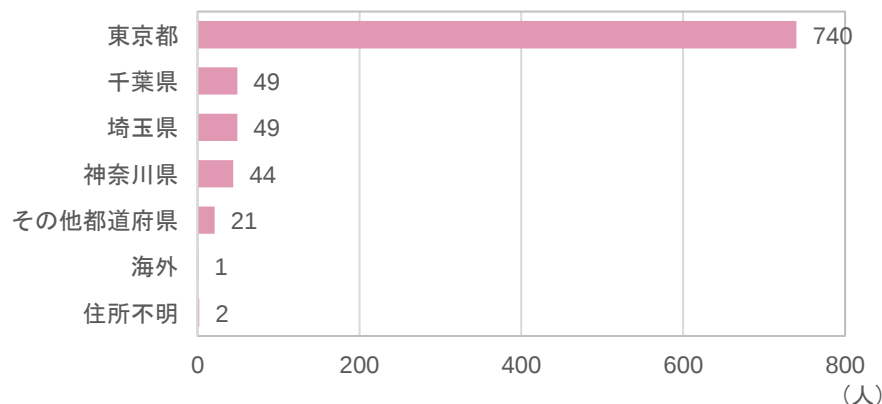
906人

回答者属性

<世代別>



<都道府県別>



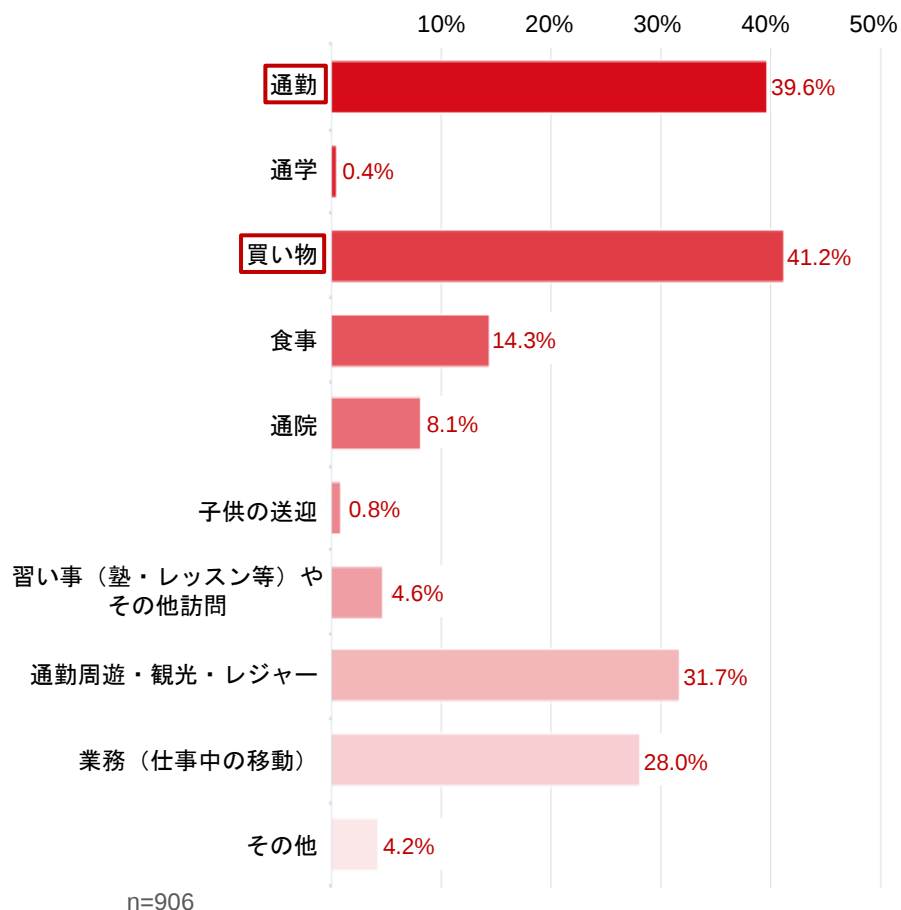
3 シェアサイクル利用者アンケート調査



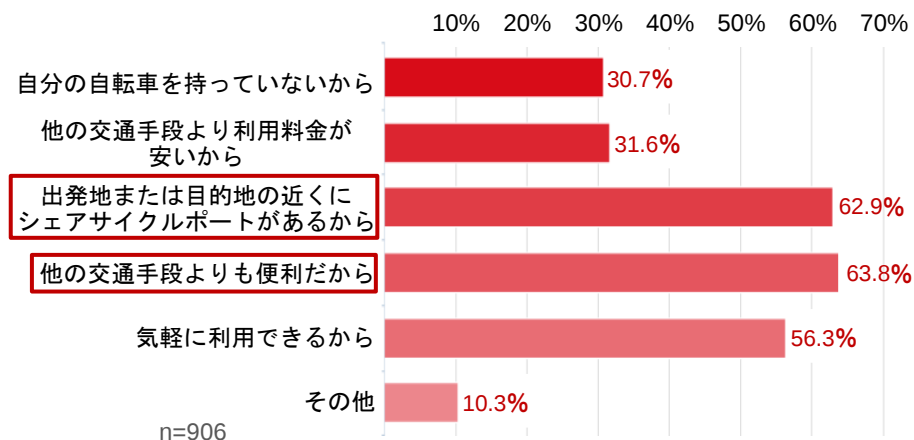
■調査結果（概要）

- ・利用目的は、「通勤」、「買い物」でシェアサイクルを利用する人が多く、いずれも利用者の4割程度に上る。
- ・シェアサイクルの利用理由として、「他の交通手段よりも便利だから」や「出発地/目的地付近にシェアサイクルポートがある」ことを理由に挙げる人が多い。
- ・区内の自転車車道走行環境に対する満足度は、約半数が満足していると回答。

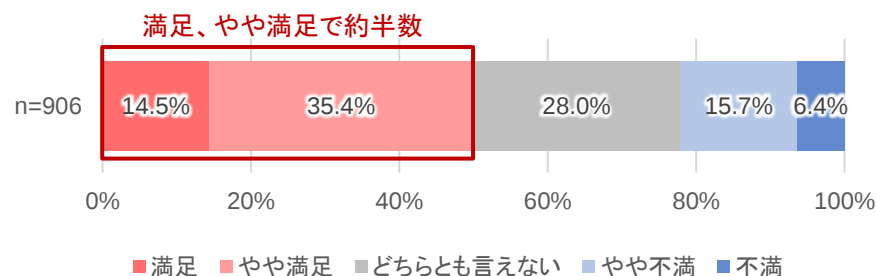
区内のシェアサイクル利用目的



区内のシェアサイクル利用理由



区内の自転車車道走行環境に対する満足度



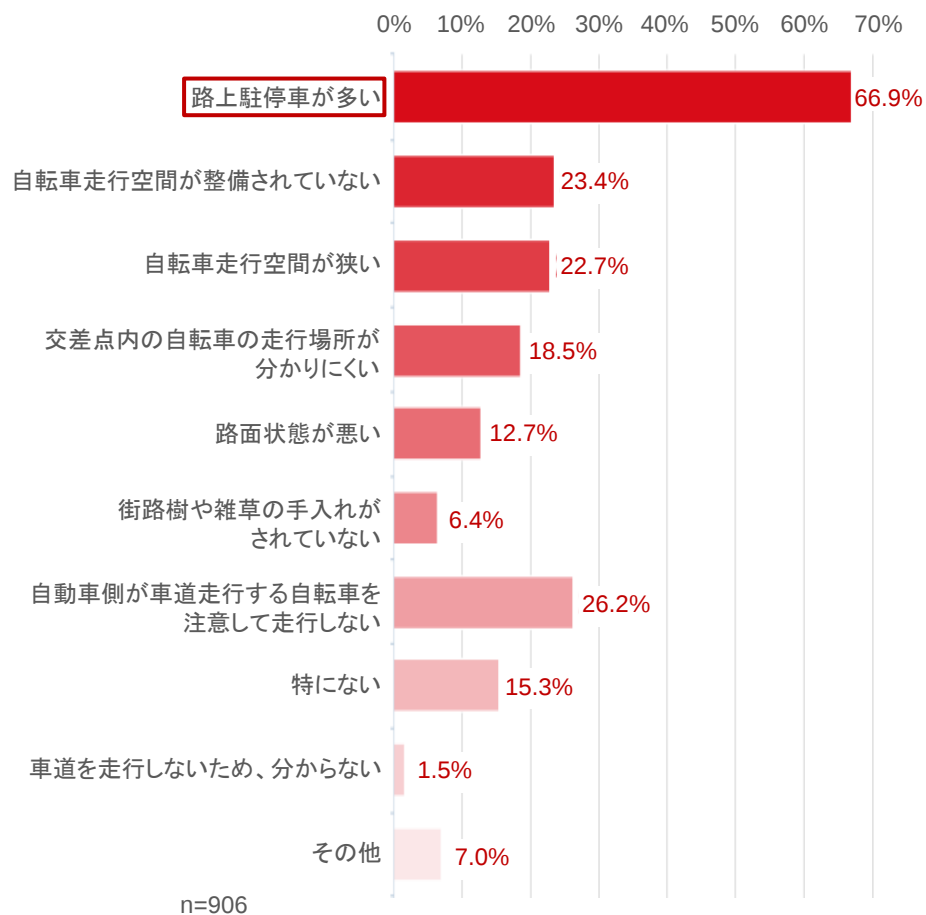
3 シェアサイクル利用者アンケート調査



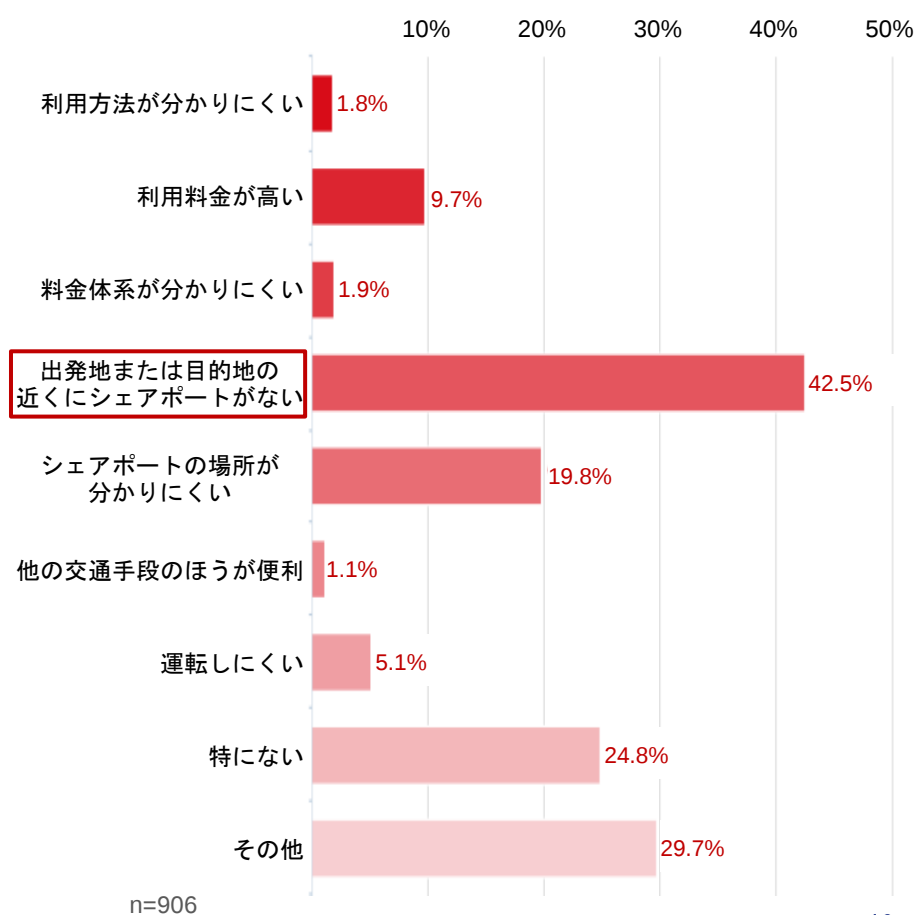
■調査結果（概要）

- 車道走行環境の不満は「路上駐停車が多い」の割合が特に高く、全体の7割弱に上る（区民アンケート結果と同様であるが割合が高い）。
- 前ページに示したシェアサイクルを利用する理由として「出発地/目的地付近にシェアサイクルポートがあること」と回答した人が多いが、不満については「ポートがないこと」と回答した人が4割程度存在する。

区内の自転車車道走行環境への不満



区内でのシェアサイクル利用に対する不満





■調査概要

調査目的

我が国の中心となる公官庁街やビジネス街を有する千代田区では、機器のメンテナンスや配送等の業務交通（自転車）で来訪する事業者は多いと考えられる。来訪者アンケートでは把握できない、実際に区内で自転車を利用している企業としての意見を確認するため、アンケート調査を実施した。

調査時期

①街頭調査（社名調査）
令和6年11月26日（火）

②アンケート調査
令和6年12月25日（水）～1月22日（水）

調査対象

千代田区内で業務で自転車を利用する企業

調査方法

下記(1)、(2)により選定した企業に対し、電話やメールにてアンケートを依頼し、Web・FAX・直接記入にて回答いただいた。

- (1) 街頭調査（社名調査）において、区内での自転車利用が確認された企業
- (2) 区内での自転車利用が想定される区内の金融機関や商工会議所

調査項目

- ・業務時の自転車利用目的
- ・区内の自転車車道走行環境/駐輪環境への不満
- ・区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み 他

■調査結果（基礎情報）

回答事業者数

5社

回答事業者属性

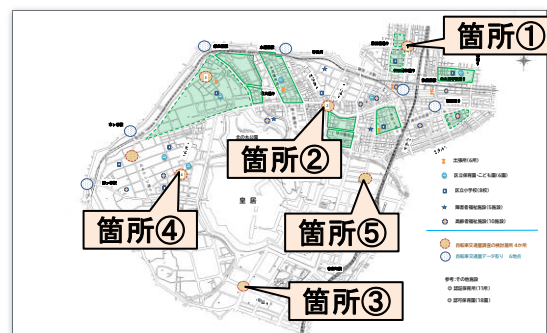
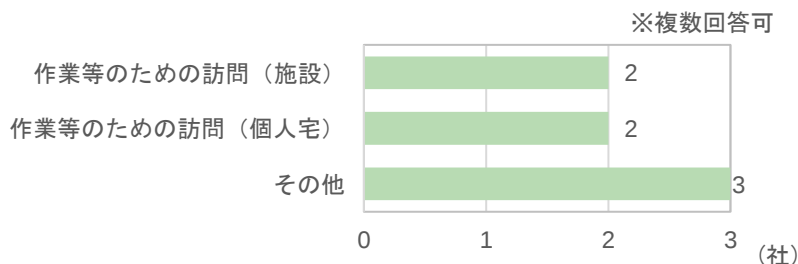
<拠点所在地>

千代田区	4社
文京区	1社

<業種>

金融機関	3社
商工会議所	1社
電気ガス事業者	1社

<千代田区内での自転車利用目的>



- ① 外神田5丁目交差点
- ② 駿河台下交差点
- ③ 霞が関2丁目交差点
- ④ 一番町交差点
- ⑤ (仮称) 大手町交差点

図 街頭調査実施箇所

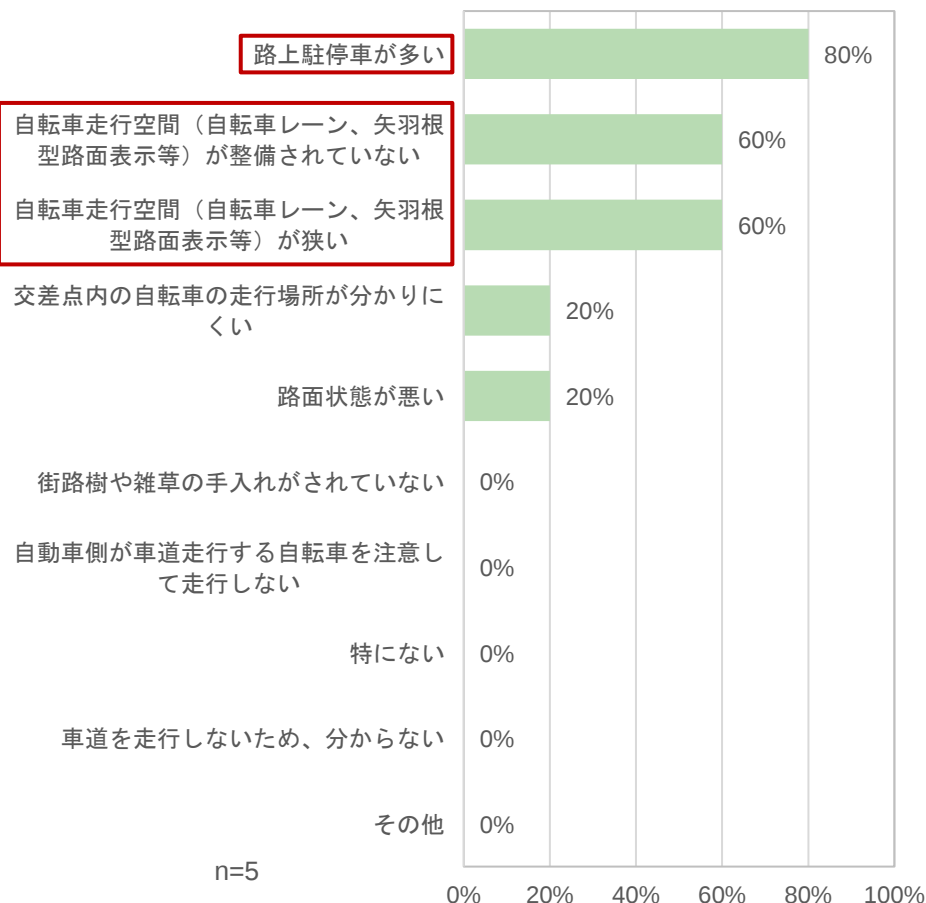
4 事業者アンケート調査



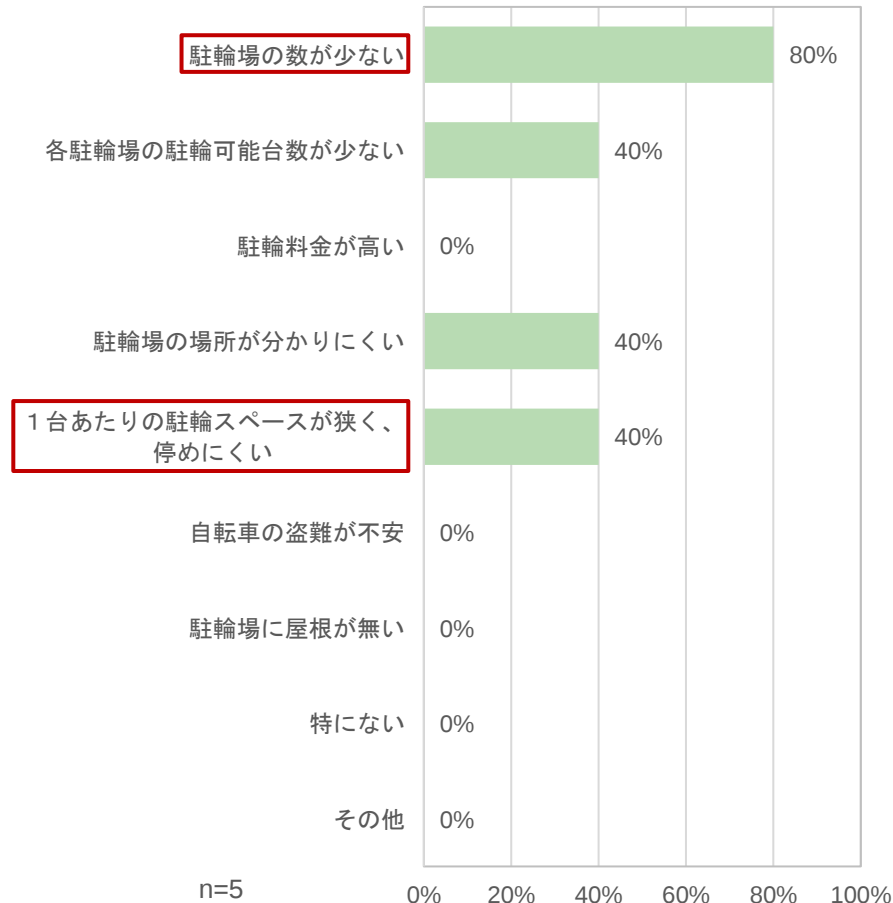
■調査結果（概要）

- ・区内の車道走行環境への不満は、「路上駐停車が多い(80%)」、「自転車走行空間が整備されていない(60%)」、「自転車走行空間が狭い(60%)」が多い。
- ・駐輪環境への不満は、「駐輪場の数が少ない(80%)」ことを挙げる企業が多い。
- ・他のアンケート結果と比較して、駐輪環境に対する「1台あたりの駐輪スペースが狭く停めにくい」の回答が40%と多い。

区内の自転車車道走行環境への不満



区内の自転車駐輪環境への不満



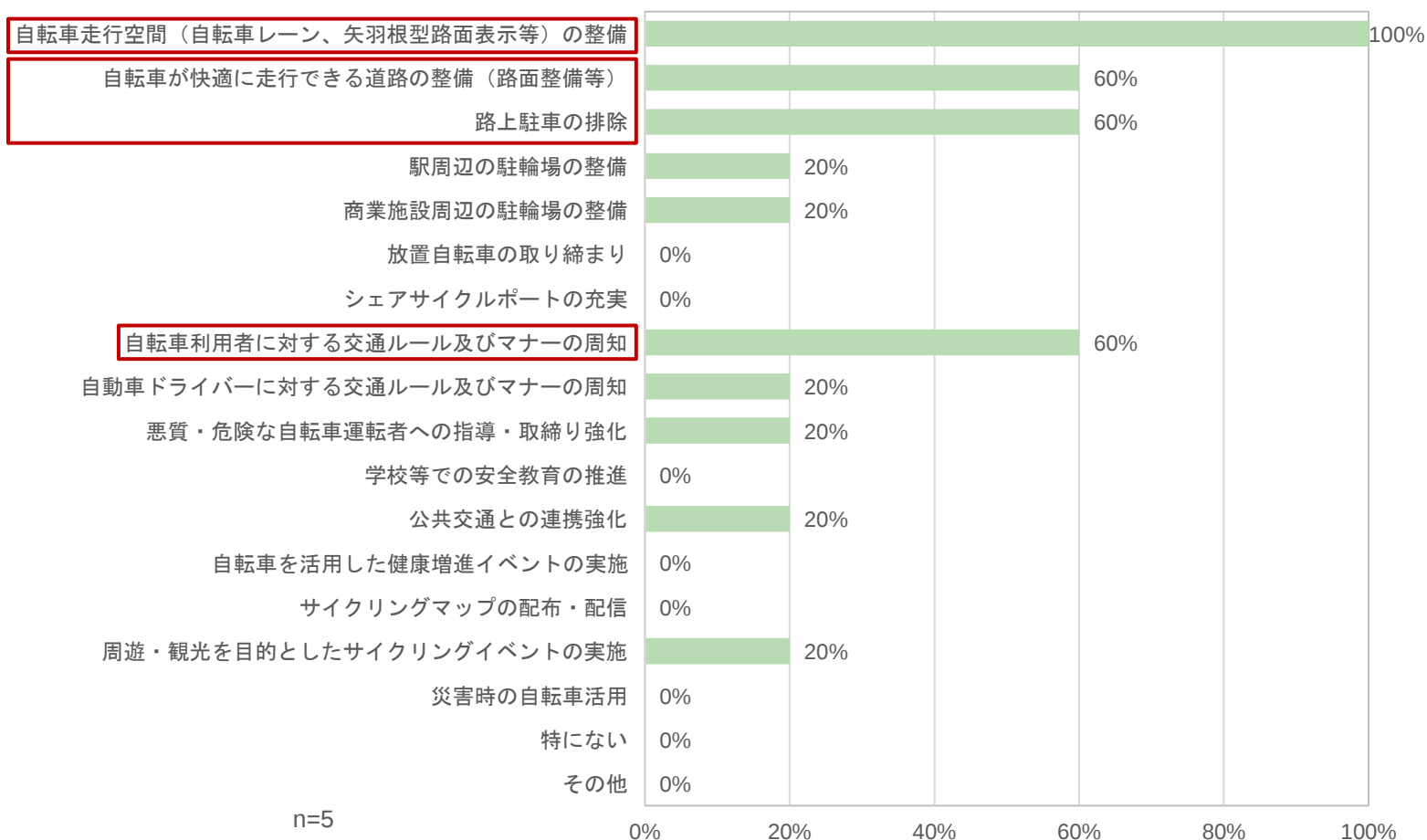
4 事業者アンケート調査



■調査結果（概要）

- 重要だと思う取り組みは、「自転車走行空間の整備」が100%と最も多く、次いで「自転車が快適に走行できる道路の整備(60%)」、「路上駐輪の排除(60%)」、「自転車利用者に対する交通ルール及びマナーの周知(60%)」が強く求められている。

区内の自転車利用促進のために重要だと思う取り組み





■調査概要

調査目的

区内において、自転車活用推進に取り組む企業を対象に、取組内容や課題に感じること等を把握し、計画に反映させるためヒアリングを実施した。

調査時期

令和7年1月16日(木)～1月24日(金)

調査対象

- ①株式会社LUUP(シェアリングサービス事業者)
- ②CycleTrip BASE Akihabara(レンタサイクル運営事業者)
- ③TOKYO ACTIVE TOURS(自転車団体ツアー企画団体)

調査項目

①株式会社LUUP

- 1) 電動キックボードの利用実態について
- 2) 区内での電動キックボードレンタルサービスの課題
- 3) 貴社の取組みについて
- 4) 今後の展望

② CycleTrip BASE Akihabara

- 1) 区内での自転車レンタルの貸出実態(インバウンドも含め)
- 2) 上記の課題
- 3) 貴社の自転車活用の取組みについて
- 4) 今後の展望、区への要望

③TOKYO ACTIVE TOURS

- 1) 区内でのサイクリングツアーの実施実態
(頻度、参加者層、ルートなど)
- 2) 上記の課題
- 3) 貴社の自転車活用の取組みについて
- 4) 今後の展望、区への要望

■事業者概要

①株式会社LUUP

- ・“街じゅうを「駅前化」するインフラをつくる”をミッションに、電動・小型・1人乗りのマイクロモビリティのシェアリング事業を展開。
- ・千代田区内には184ポート存在し、計1255台の駐輪が可能(令和6年12月末時点)。
- ・千代田区内の利用者は20～40代が中心で、9割弱を占める。(20代:約35%、30代:約33%、40代:約19%)

② CycleTrip BASE Akihabara

- ・スポーツバイク専門のレンタル事業を実施。
- ・利用者は年間7,000人程度で、外国人が8割を占める。アメリカ、ヨーロッパの方が多いほか、アジアの方も一定数いる。
- ・レンタル利用のピークは8,9月で、レンタル後の行き先としては、近隣では、皇居(パレスサイクリング)、東京タワー、浅草、荒川、渋谷あたりが多い。

③TOKYO ACTIVE TOURS

- ・江戸時代から近代までの東京の歴史をテーマに、東京のストーリーを感じながら千代田区内を巡るサイクリングツアーを実施。
- ・東京駅を起終点に、千代田区内約13kmを3時間で巡るコース(東京駅→神田→秋葉原→御茶ノ水→神保町→九段下→半蔵門→東京駅)。途中、神田明神や、靖国神社に立ち寄り。
- ・ツアー料金は、インバウンド13,000円、日本人6,000円。
- ・ツアーは月4回で、1回あたりの参加者は最大4人まで。約1年間で50～60人が参加。
- ・インバウンド向けに、英語でのツアーも実施。アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアからの参加者が多い。

6 交通量調査



■調査概要

調査目的

自転車活用推進計画の「KPIの設定」および「計画のフォローアップ」に活用するため、区内4箇所において、「自転車交通量」や「順走・逆走の遵守率」や「歩道車道の通行割合」等を調査した。

調査日時

令和6年11月26日(火)

調査箇所②③④：7～9時 (計2時間)

調査箇所①：13～15時 (計2時間)

調査方法

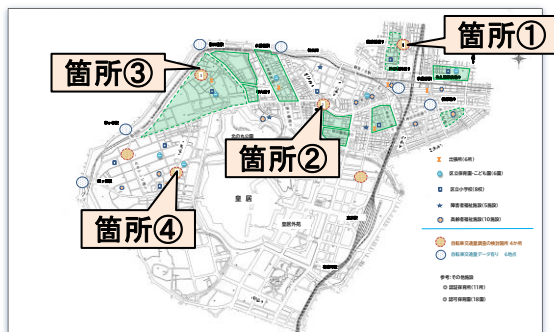
区内4箇所について、ビデオカメラを設置し、交通状況等を計測した。

《対象交通手段》

自動車(車線別)、自転車(特定小型原付も含む)、歩行者

《計測項目》

- ・自動車/歩行者交通量
- ・走行位置別自転車交通量(歩車道別、順走逆走別)
- ・ヘルメット着用率



箇所① 外神田5丁目交差点
箇所② 駿河台交差点
箇所③ (仮称)飯田橋駅前
交番東交差点
箇所④ 一番町交差点

図 交通量調査箇所

■調査結果(概要)

自動車・歩行者交通量

- ・箇所①(外神田)、③(飯田橋)、④(一番町)は歩行者交通量が総交通量の約6～9割を占める。一方、箇所②(駿河台)のみ、自動車交通量が7割強であり、歩行者交通量を上回る。

自転車交通量(走行位置別)

- ・自転車交通量は、各箇所約100～630台で、いずれも総交通量の5%以下である。
- ・自転車の車道順走割合は、4箇所平均で57%であり、半数以上が正しい位置を走行している。
- ・自転車交通量は箇所①(外神田)→②(駿河台)→③(飯田橋)→④(一番町)の順に多く、自転車の車道順走割合は箇所④→②→①→③の順に高い。

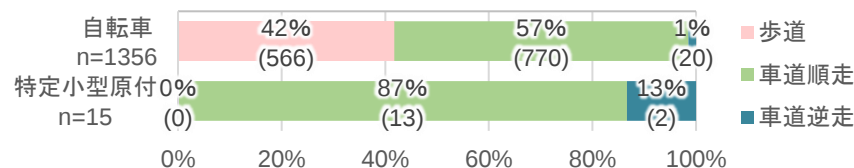


図 走行位置別割合(4箇所合計)

ヘルメット着用率(自転車)

- ・ヘルメット着用率は、4箇所平均で12%。
- ・着用率は、箇所④(一番町)が最も高く、箇所①(外神田)が最も低い。
- ・ヘルメット着用率が高い箇所は、車道走行割合も高い傾向がある。

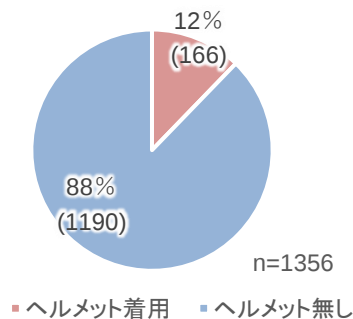


図 ヘルメット着用率(4箇所合計)